

2022 年度

コミュニティソーシャルワーカー(CSW)
スキルアッププログラム シラバス

東北学院大学

1. 本プログラムの目的について

地域資源を有効に活用した地域の福祉力活性化を達成するためには、関係者・関係機関等との連携を担うコーディネーター（コミュニティソーシャルワーカーなど）の実践力向上が重要です。

本プログラムは、宮城県社会福祉協議会や仙台市社会福祉協議会等と連携し、現場の課題に直結する新しい授業内容をもって、まちづくりのキーパーソンとなる「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」の実践力をスキルアップさせるものです。

2. 本プログラムのカリキュラムポリシーについて

本プログラムは以下のカリキュラムポリシーによりプログラムを編成しています。

(1) 基礎科目（地域福祉の基礎）

地域福祉の基礎を、福祉政策の動向、最近の理論研究の動向を踏まえて学ぶ。

(2) 必須理論（地域福祉実務の必須理論）

地域の姿を捉える方法を学ぶとともに、地域福祉活動計画の策定方法等を実践的に学ぶ。

(3) 実践技法（協働の実践技法習得）

協働のための様々な技法を学び、地域の多様な関係者・機関の協働を促す。

(4) 特論演習（多様な地域資源の活用モデル）

地域における様々な支援事例を学び、それを基に多面的な角度から地域福祉のあるべき姿を総合的に検討する。

(5) 事例研究（支援事例の検討）

現場の実例を実務家が紹介し、様々な角度から検討する。

3. 修了要件と履修証明書の交付について

「CSW スキルアッププログラム」は、学校教育法第 105 条、および学校教育法施行細則 164 条に基づく履修証明プログラムです。また、本プログラムは、文部科学大臣から「職業実践力育成プログラム（BP）」にも認定されています。

本プログラムは、

(1) 120 時間以上の講義を履修すること

(2) 各科目において提出するミニッツペーパーの点数が 60 点以上であること

(3) 報告会（中間、最終）で合格の評価を得ること

を修了要件とし、全ての要件を満たした者に対し履修証明書が交付されます。

科目と講師一覧

| 区分 | 科目名 | 講師 | ページ | |
|----------------|------|---|---------------|----|
| 必修科目 | 基礎科目 | 地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク | 阿部重樹 | 1 |
| | | コミュニティソーシャルワークⅠ・Ⅱ | 村山くみ | 2 |
| | | ケースワーク | 竹之内章代 | 3 |
| | | 社会保障制度の新たな動向Ⅰ・Ⅱ | 阿部裕二・宮城県／仙台市 | 4 |
| | | コミュニケーション基礎論とICT活用 | 坂本泰伸 | 5 |
| | 必須理論 | データによる社会調査・分析（社会疫学）Ⅰ・Ⅱ | 鈴木寿則 | 6 |
| | | データによる社会調査・分析（ライフストーリー聞き取り）Ⅰ・Ⅱ | 黒坂愛衣 | 7 |
| | | 地域の施策と資源理解Ⅰ・Ⅱ | 西塚国彦・岩渕徳光 | 8 |
| | | 地域社会とCSR（企業の社会的責任） | 矢口義教 | 9 |
| | | 組織運営 | 和田正春 | 10 |
| | | 地域福祉活動計画Ⅰ・Ⅱ | 岩渕徳光／佐々利春・増子正 | 11 |
| 選択科目 | 実践技法 | 地域福祉とファンドレイジングⅠ・Ⅱ | 久津摩和弘 | 12 |
| | | 協働の手法Ⅰ・Ⅱ | 遠藤智栄 | 13 |
| | | ファシリテーションの実際とワークショップ運営 | 渡邊一馬 | 14 |
| | | ファシリテーショングラフィック | 石塚直樹 | 15 |
| | | 災害ボランティア論 | 渡邊圭 | 16 |
| | | 災害ケースマネジメント | 鴫田栄一 | 17 |
| | | 健康格差論 | 鈴木寿則 | 18 |
| | | 傾聴の技法 | 阿部重樹 | 19 |
| | | コミュニティビジネス | 吉澤武志 | 20 |
| | | コミュニティ設計 | 手島浩之 | 21 |
| | | 東日本大震災と地域福祉 | 真壁さおり | 22 |
| | | 臨床宗教学（聴くことのカフェでもんくの事例から） | 金田諦應 | 23 |
| | | リスクコミュニケーション | 大谷みち子 | 24 |
| | | 発達障害者支援 | 皆川美雪 | 25 |
| | 特論演習 | 特論演習ⅠA（高齢者支援と地域社会） | 西澤英之 | 26 |
| | | 特論演習ⅡA（生活困窮者支援と地域社会） | 後藤美枝 | 27 |
| | | 特論演習ⅢA（子育て支援と地域社会） | 小岩孝子 | 28 |
| | | 特論演習ⅣA（障害者支援と地域社会） | 伊藤清市 | 29 |
| | | 特論演習ⅥA（精神障害者支援と地域社会） | 菅原里江 | 30 |
| | | 特論演習ⅧA（SDGsと地域社会） | 紅邑晶子 | 31 |
| | 事例研究 | 事例研究ⅠA（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：仙台市を事例として） | 大久保環 | 32 |
| | | 事例研究ⅠB（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：南三陸町を事例として） | 高橋吏佳 | 33 |
| | | 事例研究ⅡA（女川町を事例としたコミュニティソーシャルワーク） | 千葉信二 | 34 |
| | | 事例研究ⅡB（柴田町を事例としたコミュニティソーシャルワーク） | 相原美由紀 | 35 |
| | | 事例研究Ⅳ（地域活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク） | 増田恵美子 | 36 |
| | | 事例研究Ⅴ（栗原市若柳を事例としたコミュニティソーシャルワーク） | 高橋由利 | 37 |
| | | 事例研究Ⅵ（原発事故被災地を事例としたコミュニティソーシャルワーク） | ダクルス久美 | 38 |
| | | 事例研究Ⅶ（仮設住宅・災害公営住宅を舞台としたコミュニティソーシャルワーク） | 齊藤康則 | 39 |
| | 必 | 中間報告会（グループワーク） | 渡邊圭 | 40 |
| 最終報告会（グループワーク） | | 渡邊圭 | 41 | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------|--|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | 基礎科目 | | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | 地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク | | | |
| 担当者 | 阿部重樹【東北学院大学】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|---|---|----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ■ 自助・共助・公助の福祉ミックス ■ 地域福祉をめぐる政策の動向 | | | |
| 講義内容 | <p>1990年代に入り加速化した福祉改革により地域福祉の時代を迎えることとなりました。これら福祉改革の集大成として位置づけられる社会福祉法の制定(2000年)を契機として、ここに本格的な地域福祉の時代の到来が宣言されたといえます。この社会福祉法に規定された地域福祉計画、地域福祉活動計画の策定の過程において、コミュニティソーシャルワークの重要性もまた再認識されることとなりました。これらの背景となったノーマライゼーション理念の浸透、本格的な高齢社会の到来、新たなサービス給付と負担の関係構築、自助、共助、公助の福祉ミックス等の政策動向を学ぶとともに、その中にコミュニティソーシャルワークのもつ意義を学びます。</p> | | | |
| 達成目標 | <p>2010年以降の人口減少・少子高齢社会の急速な進展を背景として迎えた、新しい地域福祉の時代におけるコミュニティソーシャルワーカーに対する社会的要請を、様々な角度からへの理解する。また、多様な状況の変化の中で、コミュニティソーシャルワーカーが果たす機能と意義について理解する。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | はじめに 一慈善組織協会(Charity Organization Society: COS)と方面委員制度をめぐる一 | | |
| | 授業計画第2回 | 福祉ミックス(自助・共助・公助)、福祉多元主義と地域福祉 一人口減少・少子高齢社会の進展を背景として一 | | |
| 学修に必要な準備 | 準備は特に必要ありません。 | | | |
| テキスト | 特に用いません。授業時に配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。 | | | |
| 履修上の注意 | テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確実なものとなるように、授業終了後の復習に取り組むようにして下さい。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|-----------------------|--|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | 基礎科目 | | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | コミュニティソーシャルワークⅠ・Ⅱ | | | |
| 担当者 | 村山くみ【東北福祉大学】:4コマ(6時間) | | | |

| | | | |
|------------|--|---|----------------------|
| テーマ | コミュニティソーシャルワーク | | |
| 講義内容 | この講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク(=コミュニティ・ソーシャルワーク)の必要性を学ぶとともに、その基礎理論であるジェネラリスト・ソーシャルワークについて学習します。また、地域を基盤としたソーシャルワークを推進するための方法としてケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク等について学習を進めていきます。 | | |
| 達成目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を理解する 2. コミュニティソーシャルワークを推進するための方法について理解を深める | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を理解する 地域を基盤としたソーシャルワーク(=コミュニティ・ソーシャルワーク)の必要性について学びます | |
| | 授業計画第2回 | ジェネラリスト・ソーシャルワーク ソーシャルワークの基礎理論であるジェネラリスト・ソーシャルワークについて学習します | |
| | 授業計画第3回 | コミュニティソーシャルワークを推進するための方法① コミュニティソーシャルワークを推進するための方法について学びます | |
| | 授業計画第4回 | コミュニティソーシャルワークを推進するための方法② コミュニティソーシャルワークを推進するための方法について学びます | |
| 学修に必要な準備 | 特に必要な準備はありません。 | | |
| テキスト | テキスト:特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。 参考文献:授業の際に適宜紹介します。 | | |
| 履修上の注意 | 授業終了後は、授業で使用したプリント等を読み返し、理解を深めるようにしてください。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | 授業はプレゼンテーションとハンドアウトを使用して行います。 | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------|--|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | 基礎科目 | | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | ケースワーク | | | |
| 担当者 | 竹之内章代【東北福祉大学】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|--|-----------------------|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援 ・相談援助、面接技術 | | |
| 講義内容 | <p>地域における支援は、地域という大きな括りだけでは完結しません。その地域に暮らす住民一人ひとりのニーズの上に、その地域への支援が考えられているのです。そこで、この講義では、地域における住民への相談援助や個別支援の意義と役割、その支援技術について学びます。社会福祉の援助技術であるケースワーク(個別援助技術)の史的展開、その定義にふれ、その上で具体的な援助方法について学び、面接のロールプレイを通じて技術の習得を進めていきます。</p> | | |
| 達成目標 | <p>個別援助技術であるケースワークの意義と役割が理解でき、説明できる。また、ロールプレイなど体験型の学習を通して、その技術を実際の活動の中で実践できることをめざす。</p> | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉の援助技術における「個別援助技術」とは何か ②援助技術の史的展開 ③個別援助技術とは(意義と役割) ④面接の技法 | |
| | 授業計画 第2回 | <ul style="list-style-type: none"> ①個別支援技術の実際 ②事例を通して考える～ロールプレイを通じて学ぶ | |
| 学修に必要な準備 | 特にありません。 | | |
| テキスト | 授業で必要な資料を配付します。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | |
|------------|---|---|---|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | |
| 科目分類 | 基礎科目 | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | |
| 科目名称 | 社会保障制度の新たな動向 I・II | | |
| 担当者 | 阿部裕二【東北福祉大学】:2コマ(3時間) 宮城県職員:1コマ(1.5時間) 仙台市職員:1コマ(1.5時間) | | |
| テーマ | 【第1回・2回】 ・2040年を見据えた社会保障制度の改革 ・地域共生社会に向けた方策 【第3回・4回】 ・宮城県と仙台市における社会福祉の現状と課題 | | |
| 講義内容 | 【第1回・2回】 日本の社会保障制度は、経済成長により達成した豊かな社会を基盤として、対象者や給付の拡大を進めてきました。ところが近年、少子高齢化、人口減少、国際化、財政危機、労働環境の変化等を背景として、さまざまな社会保障制度の改革が進行しています。社会保障制度は私たちの生活そのものであり、その意味で制度改革は生活に大きな影響を及ぼします。そこで本講義では、2040年に向けた社会保障制度の改革の内容と、地域共生社会が叫ばれている昨今、生活困窮者自立支援制度を中心とした生活困窮者支援の内容と今後の方向性を共に考えたいと思います。 【第3回】 国の社会福祉制度及び宮城県の社会福祉行政について説明します。 【第4回】 仙台市の社会福祉制度や重点政策について説明します。 | | |
| 達成目標 | 【第1回・2回】 ・2040年を見据えた社会保障制度改革の概要を説明できる。 ・地域共生社会と生活困窮者自立支援制度の関係を説明することができる。 ・生活困窮者支援のあり方を提示することができる。 【第3回】 ・これまでの国や県が実施してきた社会福祉行政を概観することで、地域における社会福祉行政の課題や今後の方向性を考えることができる。 【第4回】 ・仙台市の社会福祉制度について理解を深める。自らが住む地域や勤務先の市町村の社会保障制度について、主体的に考えることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 2040年を見据えた社会保障制度の改革について考察します。 | |
| | 授業計画 第2回 | 地域共生社会と生活困窮者自立支援制度の關係に留意しつつ、生活困窮者に対する支援の実態について考えます。 | |
| | 授業計画 第3回 | これまで国で実施してきた社会福祉制度を概観し、宮城県地域福祉支援計画を中心に地域福祉を取り巻く状況や支援施策の展開について考察します。 | |
| | 授業計画 第4回 | 仙台市の社会福祉制度についての学びを通して、自らが住む地域や勤務先の市町村の社会保障制度について考察します。 | |
| 学修に必要な準備 | 【第1回・2回】 準備は特に必要ありませんが、自分なりに社会保障制度の現状や生活困窮者自立支援制度の目的等を調べておいていただければ、それが予習になると思います。 【第3回・4回】 特にありません。 | | |
| テキスト | 【第1回・2回】 特にありません。授業の際に資料を配付します。また、パワーポイントのスライドを活用します。 【第3回】 特にありません。事前にパワーポイントを送付しますので、資料として活用してください。 【第4回】 特にありません。当日に資料を配布します。 | | |
| 履修上の注意 | 【第1回・2回】 本講座は、地域における支援者(コミュニティソーシャルワーカー)としてのスキルアップ講座ですが、我がこととして学ぶことが理解を深める一助になります。 【第3回】 地元市町村において「市町村地域福祉計画」を策定している場合には、事前に目を通しておくと県の支援計画との関連性が理解できます。 【第4回】 自身の地元や勤務先の市町村の福祉政策について調べておくことで、より具体的なイメージを持って受講できるはずです。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 ○(第3回、第4回のみ) 実務家教員や実務家による授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------|--|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | 基礎科目 | | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | コミュニケーション基礎論とICT活用 | | | |
| 担当者 | 坂本泰伸【東北学院大学】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|------------------------------|----------------------|
| テーマ | ・コミュニケーションの構造と役割についての理解と活用 | | |
| 講義内容 | <p>コミュニティソーシャルワークは、個人の努力や能力だけで進めることはできません。地域において生活上の課題を抱える家族や個人に対する「個別的支援」は、チームによるアプローチによって統合的に展開や実践する必要があります。特に、人々が暮らす生活環境の整備や住民の組織化等といった「地域支援」の効果的な実現に向けて、コミュニティソーシャルワーカーにはチーム内外の活動における高いコミュニケーション能力が求められています。この講義では、コミュニケーションの構造と役割について基本的な部分から理解を進め、コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法を理解していきます。</p> | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの構造と役割について基本的な事柄を理解する ・コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法を理解する ・コミュニケーションとコミュニティソーシャルワークの関係性を理解する | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | ・コミュニケーションの構造と役割 | |
| | 授業計画第2回 | ・コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法 | |
| 学修に必要な準備 | 特に必要な準備はありません。 | | |
| テキスト | この授業では特定のテキストは使用しません。授業の際に配布する、パワーポイントのスライド資料を利用して授業を進めます。グループワークないしは個人ワークを含みますので、筆記用具を手元に準備してください。 | | |
| 履修上の注意 | テーマごとのそれぞれの授業内容について理解が確実なものとなるように、授業中の積極的な質問の実施や、授業終了後の振り返りを意識するようにしてください。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | 授業はプレゼンテーションとハンドアウトを中心にして進めていきます。 | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--------------------------|------|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | 必須理論 | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅰ・Ⅱ | | | |
| 担当者 | 鈴木寿則【仙台白百合女子大学】:4コマ(6時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|--|-------------------------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ利活用の考え方 ・保健医療分野における分析手法について | | | |
| 講義内容 | <p>地域における保健、医療、福祉の課題を明確にし、その対策を講じるために必要な情報分析(地域診断)の基礎を学びます。現在、わが国は世界一の長寿社会を達成し、平均寿命および健康寿命が世界一となっています。同時に、高齢化率も28.4%と世界一となっており、2025年までには介護需要が40%以上増加することが推計されています。このような社会状況下で、国は疾病予防、介護予防を重視した施策を展開中であり、その一環として、地域におけるデータ分析は必須のものとなっています。講義では、分析の手法のみならず、現在、求められている分析の背景、必要性を踏まえ、今後の地域における保健、医療、福祉のあり方、連携について考察を行います。</p> <p>また、地域社会の現状を把握しようとする際に用いられる「アンケート調査」の方法の基礎について学びます。アンケート調査では、調査対象の設定、調査票作成、集計と分析などを実技や演習を取り入れ、実践的に学習します。</p> | | | |
| 達成目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在のわが国の社会保障(保健、医療を含む)の状況について理解する。 2. 保健、医療、福祉の連携のために必要なデータ分析の意義について理解する。 3. データ分析の手法(統計処理)の基礎について理解する。 4. 健康増進、地域課題の抽出と課題解決に必要な疫学の概要について理解する。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 社会保障を取り巻く状況(国民医療費の問題など)について データ分析の必要性について | | |
| | 授業計画第2回 | 地域(集団)を対象とする統計処理の考え方について 現在の日本再興戦略における「データヘルス計画」について | | |
| | 授業計画第3回 | 疫学(地域相関分析、症例対照研究、前向きコホート研究)の概要について 疫学研究結果の評価(スクリーニングなど)について | | |
| | 授業計画第4回 | 地域の情報分析の結果の考察について PDCAサイクルの実践について | | |
| 学修に必要な準備 | 特に必要ありません。 | | | |
| テキスト | 日本疫学会 監修『はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～ 改訂第3版』 | | | |
| 履修上の注意 | 本講義は、分析の手法等について解説していきますが、地域分析(地域診断)は、それぞれ目的、背景(地域特性)、考察が様々であり、異なってきます。履修上、受講者の皆様には、講義で学修した内容を、常に自分たちの現場等でどのように活用できるのかを考え、主体的に取り組んで頂きたいと思っております。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○(第3回、4回のみ) 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | 参考文献:保健、医療、福祉にかかる分析、統計処理をはじめて学習する方は、西内啓 著『統計学が最強の学問である』(ダイヤモンド社、2013)が、入門書としてお勧めです。 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|----------------------------------|------|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | 必須理論 | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り) I・II | | | |
| 担当者 | 黒坂愛衣【東北学院大学】:4コマ(6時間) | | | |

| | | | |
|------------|--|-------------------------------------|--|
| テーマ | 社会調査としてのライフストーリー聞き取り | | |
| 講義内容 | 社会調査としての「ライフストーリー聞き取り」の方法について基礎を学びます。講師が行ってきた調査の経験から、聞き取りやフィールドワークの意義とおもしろさを知るとともに、質問のしかた／語りの意味の分析／調査倫理などについて学習します。グループワークで「ライフストーリー聞き取り」を読み解く時間も設けます。 | | |
| 達成目標 | (1) 社会的背景の異なる他者の人生の語りを聞くことのおもしろさに気づく。 (2) 社会調査としての「聞き取り」の方法の基礎について理解を深める。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 「ライフストーリー聞き取り」の魅力 | |
| | 授業計画 第2回 | 「ライフストーリー聞き取り」を読んでみよう(グループワーク) | |
| | 授業計画 第3回 | 「ライフストーリー聞き取り」の読み解き、聞き取り調査の方法について | |
| | 授業計画 第4回 | 調査倫理について | |
| 学修に必要な準備 | 講義のなかで適宜指示します。 | | |
| テキスト | 講義のなかで適宜指示します。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | ○(第1回、2回のみ) 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--|------|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | 必須理論 | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | 地域の施策と資源理解Ⅰ・Ⅱ | | | |
| 担当者 | 西塚国彦【宮城県社会福祉協議会】: 2コマ(3時間) 岩淵徳光【仙台市社会福祉協議会】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|---|----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> 福祉の担い手とその役割と現状 地域福祉資源の抱える課題と解決方策 | | | |
| 講義内容 | <p>【第1回・2回】 介護保険制度発足当時、約214万人だった要介護認定者は、500万人を超えました。一方で各サービスやインフォーマルなサポートは地域の中で、断片化されたままであって統合的に提供されていません。住み慣れた地域で高齢者等の生活を支える仕組み(地域包括ケアシステム)の実現に向けて学びます。併せて、地域共生社会の実現に向けた、社会福祉法の改正について確認します。</p> <p>【第3回・4回】 第3回は、仙台市社会福祉協議会が進めてきた地域福祉活動は、平成8年度から、ほぼ中学校区単位で組織されている地区社会福祉協議会が行う小地域福祉ネットワーク活動を基盤としている。現在、市内104全ての地区社会福祉協議会で行われてきたが、コロナ禍により活動が停滞している。今後の活動のあり方についても、考察していきます。 第4回は、そもそも地域資源とは何かなど基本的な知識を学び、地域資源の活用、創設について考察していきます。</p> | | | |
| 達成目標 | <p>【第1回・2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度を「地域支援事業」を軸に理解できる。 「地域支援事業」の理解をもとに、専門職以外の生活支援の担い手の確保について考察できる。 <p>【第3回・4回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小地域福祉ネットワーク活動の現在の活動を理解し、活動から見える課題を発見、考察できる。 課題解決に必要な地域資源とは何かを理解し、その把握手法や活用方法、資源開発の視点等を理解できる。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 介護保険制度 平成26年改正(平成27年4月施行)のポイント 地域共生社会の実現に向けた社会福祉法改正のポイント | | |
| | 授業計画 第2回 | 地域包括ケアシステムにおけるサービス提供体制の考え方 | | |
| | 授業計画 第3回 | 小地域福祉ネットワーク活動の実際 | | |
| | 授業計画 第4回 | 地域資源把握手法と活用方法や資源開発の視点等について | | |
| 学修に必要な準備 | <p>【第1回・2回の準備】 受講者がお住まいの地域又は興味関心のある地域(県内市町村)の将来推計人口(生産年齢人口、65歳以上、75歳以上の区分毎)から、私たちが直面する「人口減少と介護需要の増加」についての対応策(考え)を簡単にまとめておく。 参考資料「県内市町村の社会増減の状況と将来人口推計 宮城県企画部統計課分析所得班/出典 等」</p> <p>【第3回・4回の準備】 仙台市社会福祉協議会のHPから、地域福祉活動計画を検索し、その中に記載している小地域ネットワーク活動について確認しておいてください。</p> | | | |
| テキスト | <p>【第1回・2回で使用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■厚生労働省 老健局振興課 介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方 http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000074692.pdf ■厚生労働省 政策について 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureiisha/gaiyo/index.html ■厚生労働省 地域力強化検討会最終とりまとめ(平成29年9月12日) ■改正社会福祉法第4条, 第5条, 第6条, 第106条, 第107条, 第108条 <p>【第3回・4回】 当日持参します。</p> | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | ○企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|-----------------------|------|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | 必須理論 | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | 地域社会とCSR（企業の社会的責任） | | | |
| 担当者 | 矢口義教【東北学院大学】：2コマ（3時間） | | | |

| | | | |
|------------|--|--|----------------------|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会的責任の正確な理解と現代的潮流 ・社会貢献を視点とする企業と地域社会との関係性 | | |
| 講義内容 | <p>本講義では、地域社会の持続可能な発展における企業の役割を考察する。そのために、まずCSR（企業の社会的責任）が、どのような背景で出現しているのかを概観し、CSRの概念を理解する。これによって、CSRの特徴やその意味を理解する。また、近年のCSRの特徴についても解説し、そこには「戦略性」が存在しており、企業の競争優位にも関係することを示す。</p> <p>このような前提を踏まえて、企業と社会との関係に考察を進める。日本企業における社会貢献の全体像を示し、近年のトレンド、そして大企業と中小企業との違いにも言及していく。そして、東日本大震災時および復旧・復興期における企業の役割をCSRの観点から考察し、企業の地域社会におけるCSRの意味をより深く掘り下げていく。最後に、社会福祉法人に求められるCSRについて、制度や事例も含めて検討することで、組織の社会的責任を理解する。</p> | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動も含めたCSRについて、正しく理解できるようになる ・企業と地域社会（NPOや福祉団体）の関係を理解できるようになる ・企業との連携について、新たな発見やアイデアを考えるための基礎を修得する | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | CSRとは（CSRの背景、基本的概念と構成要素、現代的潮流） | |
| | 授業計画第2回 | 企業と地域社会（企業の社会貢献活動、東日本大震災やコロナ禍における企業の社会性） | |
| 学修に必要な準備 | 準備は特に必要ありません。 | | |
| テキスト | テキストは用いません。授業の際に配布するパワーポイントのハンドアウトをテキストとして使用します。 | | |
| 履修上の注意 | 授業の内容を深める努力をしてください。実際には、新聞記事やニュースなどで地域企業の動向を見て、当該企業の性質・特徴と取り組める役割などを常に考えられるようになってください。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------|------|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | 必須理論 | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | 組織運営 | | | |
| 担当者 | 和田正春【東北学院大学】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|---|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップと組織のマネジメント ・人的資源マネジメント ・地域住民の組織化 | | | |
| 講義内容 | <p>コミュニティソーシャルワークにおいては、地域の資源を開発するとともに、さまざまな人や組織をつなぐ役割が求められます。地域住民組織のマネジメントに必要な組織運営に関する考え方を知り、その問題点を分析して解決するための力が必要です。こうした観点から、リーダーシップとマネジメント、人的資源マネジメント、組織のマネジメント、地域住民の組織化についてグループワークを取り入れながら学びます。</p> | | | |
| 達成目標 | <p>実例に向き合いながら体系的に理論を学習し、状況に応じたアプローチを実践できる。 また、マネジメントの考え方と基本的な手法を理解し、地域での活動において、何らかの成果を生み出すためのリーダーシップとマネジメント力をバランスよく発揮するための方法を理解する。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | <p>行動科学的な視点からリーダーシップについて概説します。その上でCSWの活動で想定される状況下でのリーダーシップについて検討し、受講者と共に実際のケースに基づいて議論します。リーダーシップを、目的に合致して自律的なチームを構成するための技法と理解し、幅広く検討していきます。</p> | | |
| | 授業計画第2回 | <p>人材を疲弊させず、生産性を高めていくための組織作りのあり方について、組織課題の段階別、チームの成熟度別に解説し、実際に組織化を進める上での課題を検討します。実際の取組の中で生じる課題を念頭に、全員で議論していきます。</p> | | |
| 学修に必要な準備 | <p>特段の準備は必要ありませんが、各種文献や新聞等を通してコミュニティと組織の違いについての自分なりの理解をしていることが望ましいです。</p> | | | |
| テキスト | <p>オリジナルの資料を用いるのでテキストは使用しません。</p> | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--|------|--|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | 必須理論 | | |
| 必選区分 | 必修科目 | | | |
| 科目名称 | 地域福祉活動計画Ⅰ・Ⅱ | | | |
| 担当者 | 岩淵徳光【仙台市社会福祉協議会】:1コマ(1.5時間) 佐々利春【富谷市社会福祉協議会】:1コマ(1.5時間) 増子正【東北学院大学】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|---|----------------------|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・実例に基づく地域福祉活動(支援)計画の理解 ・地域福祉活動計画策定の実際とその課題 ・地域福祉活動計画の評価 | | |
| 講義内容 | <p>社会福祉協議会が策定をする地域福祉活動(支援)計画は、改正社会福祉法の成立(2017年)により地方自治体において福祉分野の「上位計画」として位置づけ策定を努力義務化された地域福祉計画と両輪をなすものとして位置付けられています。この間の経緯や背景を学ぶとともに、事例として仙台市社会福祉協議会と富谷市社会福祉協議会が策定をした活動(支援)計画の場合について、より望ましい計画策定に向けた課題を演習形式で検討します。</p> <p>第1回では、実際の市町村における活動計画等の策定プロセスを学び、どのように課題解決に反映させていくのかなどについて考え、自らが居住する(または活動で関わっている)市町村において、策定のプロセスに市民がどのように参画するのが望ましいのか考えます。第2回では、策定後に行政や住民と協働体制を敷いた富谷市社協の、策定の過程や効果について説明します。</p> <p>また、評価は計画を遂行するために欠くことのできない重要なプロセスです。計画の修正・見直しは評価に基づいて行われなければならないため、第3・4回では、評価の概念・手法・活用方法と事例を紹介し、具体的な地域福祉活動計画評価への活用の仕方を考えていきます。</p> | | |
| 達成目標 | 地域福祉計画の必要性と宮城県地域福祉支援計画及び県社協の35市町村社協を支援する推進計画の内容を理解する。自治体社協ごとの取組、工夫、特徴を学ぶとともに、その策定による効果を理解する。評価の手法を修得し、地域福祉活動計画の修正・見直しに活用できるようになる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 市町村における行政計画と活動計画の実際 仙台市における活動計画策定のプロセス 仙台市第4次地域福祉活動計画について | |
| | 授業計画第2回 | 市町村における行政計画と活動計画の実際(富谷市社会福祉協議会を例に) | |
| | 授業計画第3回 | 評価の意義 地域福祉活動計画と評価 | |
| | 授業計画第4回 | 地域福祉活動計画の評価方法の検討 | |
| 学修に必要な準備 | 第1回については、本会HPにある地域福祉活動計画に目を通しておいてください。 第2回については、特にありません。 第3回、第4回までに、行政機関が行なっている政策評価についてHPで目を通しておいてください。 | | |
| テキスト | 第1回、第2回の事例については、講師が当日持参します。 第3・4回については、講義の前までに配布するので、当日持参ください。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | ○(第1回・2回のみ) 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○(第1回・2回のみ) 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 地域福祉とファンドレイジング I・II | | | |
| 担当者 | 久津摩和弘【一般社団法人日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET】:4コマ(6時間) | | | |

| | | | | |
|------------|---|--------------------------------------|----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課題への対策とファンドレイジングの関係性の理解 ・ファンドレイジング基礎知識 ・福祉におけるファンドレイジングの取組事例 ・支援者を集めることができる社会的インパクト志向の地域福祉活動の作り方 | | | |
| 講義内容 | <p>これまで日本の地域福祉においては、行政からの公的財源や助成団体からの助成金を主な財源としたサービス提供、団体の経営が行われてきた。しかし昨今、地方自治体の財政状況の厳しさ等もあり、公的財源による新たなニーズ対応が困難となるなど、十分な地域福祉活動が行えないことが増えている。また、地域のボランティア団体等への助成金による支援を行う助成団体においても、地域からの寄付金の減少などにより、十分な資金支援を行えないことも増加している。地域福祉活動を行う団体においては、これらの財源がなくなったとしても、継続的かつ安定的に地域のニーズへの支援活動を行う使命があるものの、財源対策を行えている団体はごくわずかである。</p> <p>一方、地域福祉においては、例えば、貧困世帯の食事代や入学準備の支援、地域におけるゴミ屋敷、高齢者世帯の電球の交換等の個別のニーズ、マイノリティのニーズ、すぐに対応が必要なニーズ、制度では拾いきれないニーズなど、公的財源や助成金等では対応が困難、または対応がふさわしくないニーズにも対応する必要があるが、このようなニーズには寄付金など、自由度の高い民間財源を使わなければ対応していくことができない状況もある。しかし、この点に関して、十分な財源を確保できている団体はごく一部であるのが現状である。</p> <p>そこで、地域福祉活動を行うCSWがお金がないで終わらせない、継続的で安定的な支援活動を実現することができるようにするため、地域福祉におけるファンドレイジングの位置付け、支援が集まる成果志向の事業の作り方、個人や企業へのアプローチの仕方など、ファンドレイジングに関する体系的な知識、取組事例等を学びます。</p> | | | |
| 達成目標 | 公的財源の限界がある中において、コミュニティソーシャルワーカーが「お金がない」で諦めない福祉を实践し、多様な財源を確保し、様々なニーズに対応できるようにするための基盤となる理念やファンドレイジングの専門的な知識、取組事例等を理解する。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | CSWの支援活動とファンドレイジングの関係性 | | |
| | 授業計画第2回 | 地域にファンを増やすファンドレイジング基礎知識 | | |
| | 授業計画第3回 | ファンドレイジングを成功させる社会的インパクト志向の地域福祉活動の作り方 | | |
| | 授業計画第4回 | 共感と企業の本業が繋がるファンドレイジング | | |
| 学修に必要な準備 | 特にありません。 | | | |
| テキスト | 地域福祉とファンドレイジング(2018)中央法規出版 パワーポイントの配布資料 | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|-----------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 協働の手法 I・II | | | |
| 担当者 | 遠藤智栄【地域社会デザイン・ラボ】: 4コマ(6時間) | | | |

| | | | | |
|------------|---|--------------------------------------|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・協働の歴史 ・協働の事例 ・課題と今後について | | | |
| 講義内容 | <p>多様な主体が互いに連携し、単独では成し得ない課題解決を実現する「協働」の手法は、日常のまちづくり活動のみならず、大規模災害時の復旧、復興にも活用されています。本講義では、協働についての歴史や事例、そして現在の課題と今後の可能性について演習形式を取り入れながら学びます。</p> | | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域や福祉、公共を考える上で不可欠な「協働」の概念を理解する。 ■ 協働テーマの発見・協働取り組みの構築・協働での成果の確認・評価などの全体プロセスを理解する。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 協働の歴史と意味、そのプロセス～社会や公共における重要性を考える～ | | |
| | 授業計画第2回 | 協働事例とその分析～行政側の変化と仕組み化～ | | |
| | 授業計画第3回 | 協働事例とその分析～民間側(非営利組織、営利組織など)の変化と仕組み化～ | | |
| | 授業計画第4回 | 協働コーディネーターとしてのコミュニティソーシャルワーカーの動きと役割 | | |
| 学修に必要な準備 | 準備は特に必要ありません | | | |
| テキスト | 使用する資料は授業の際に配布します。 | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | 授業はパワポを使用して行います。 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | ファシリテーションの実際とワークショップ運営 | | | |
| 担当者 | 渡邊一馬【一般社団法人ワカツク】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|---|--|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションの基礎と実践 ・ワークショップの設計と運営 | | | |
| 講義内容 | <p>協働においては、参加する自治体職員、公共団体職員、NPO職員、市民等の合意形成の質を如何に高くするか、メンバーの納得度をどのようにして高めるかなど、ファシリテーションの機能が成功の鍵であり、この機能は日常でのコミュニケーション全般において必要です。そして、協働の場で用いられるワークショップは、主体的な学びや創造、問題解決やトレーニングの手法です。この講義では、ファシリテーションの基本的技術とワークショップ運営をより充実させるための手法を、受講生との演習/実例より学びます。</p> | | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションの考え方を理解する。 ・ワークショップを自ら運営するための基本的なスキルを修得する。 ・具体的事例でのワークショップ運営を構想できる。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | ワークショップの設計と運営(座学とワークショップ) ・場づくりの意味 | | |
| | 授業計画 第2回 | ワークショップ運営演習 ・ワークショップ運営を構想する～参加者が取り組みたい地域課題をもとに～ | | |
| 学修に必要な準備 | <p>授業で使いますので、下記を事前にご準備下さい。 自分の身の周りで取り組んでいる、もしくは取り組みたい「地域課題」と、その課題に関係している「登場人物10人以上」を出来るだけ具体的に書き出してきて下さい。</p> | | | |
| テキスト | テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。 | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | ファシリテーショングラフィック | | | |
| 担当者 | 石塚直樹【東北学院大学】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|--|-----------------------|
| テーマ | ファシリテーショングラフィックの基本的技術と実践 | | |
| 講義内容 | ファシリテーショングラフィックとは、様々な話し合いの場面で、参加者同士がお互いの考え・思いを理解し、さらなる深い思考につなげるための技術です。今回は、ワークショップに限らず、さまざまな場面で用いることができるファシリテーショングラフィックの基本的技術や会議等での活かし方を学びあいます。 | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを自ら効果的に運営するためのファシリテーショングラフィックに関する基本的なスキルを修得する。 ・ファシリテーショングラフィックを用いた具体的事例でのワークショップ運営を構想できる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | ファシリテーショングラフィックの基礎を学ぶ ・ファシリテーショングラフィックの基本的な考え方・基本的な技術とは | |
| | 授業計画 第2回 | ファシリテーショングラフィック演習 ・話し合いを記録する～基本的なファシリテーショングラフィックの実践～ | |
| 学修に必要な準備 | 当日はグラフィックをノートにもまとめて頂くので、カラーボールペン3色以上とノートをご準備下さい。(ノートは普段お使いのもので大丈夫です) | | |
| テキスト | テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|-----------------------|--|------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 災害ボランティア論 | | | |
| 担当者 | 渡邊圭【東北学院大学】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|-------------------------------------|----------------------|
| テーマ | 災害対応におけるボランティア活動の役割・機能及びその効果的/効率的なマネジメントについて理解 | | |
| 講義内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時のボランティア活動が果たす役割・機能について理解する 2. 災害サイクルモデル及び被災地域の復興過程に基づくボランティア活動の展開について理解する 3. 災害対応、復興支援における資源としてのボランティアの効果的・効率的なマネジメントについて理解する | | |
| 達成目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時のボランティア活動について理解する 2. 災害サイクルモデル、復興過程の展開に沿ったボランティアによる支援のあり方及びそのマネジメントについて理解する | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 災害時のボランティア活動とは？—果たす役割・機能、日本における変遷— | |
| | 授業計画第2回 | 災害サイクルモデル、被災地域の復興過程と災害時のボランティア活動の展開 | |
| 学修に必要な準備 | 特に必要な準備はありません。 | | |
| テキスト | 講義時に配布する資料を基に講義を行うため特に必要はありません。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | 参考文献 ・菅磨志保・山下祐介・渥美公秀『災害ボランティア入門』弘文堂(2008) ・丸山千夏『ボランティアという病』宝島社新書(2016) | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|----------------------------|--|------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 災害ケースマネジメント | | | |
| 担当者 | 鴫田栄一【宮城県社会福祉協議会】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|--|--|----------------------|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時におけるソーシャルワークの必要性とその理論について ・災害時特有の状況と課題を踏まえた災害ケースワークについて ・災害とコミュニティソーシャルワークの関係性について | | |
| 講義内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・被災者が抱える生活課題を分析し、その課題に対しどのような支援が必要か、また被災者自身が持つ力と様々な支援を活かす「調整力」の重要性について理解する。 ・被災者とは何か、被災者の生活課題の分析 ・支援者が持つ力の特性(外部支援、近隣支援、フォーマル支援、インフォーマル支援など各々が持つ支援の特性) ・支援を活かす調整力の必要性、被災地元に必要な役割 | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時特有の状況(課題)を理解する。 ・コミュニティソーシャルワーカーが担うべき被災者支援について理解する。 | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 災害時におけるソーシャルワークの必要性について、これまでの災害の歴史や被災者支援の取り組みから理解する。 | |
| | 授業計画第2回 | 主に東日本大震災の事例を元に、被災者支援の目指すべき姿、支援方策等について検討する。 | |
| 学修に必要な準備 | 特に準備は必要ありません。 | | |
| テキスト | 特に用いません。授業に際して配布する講義資料を用いて講義します。 | | |
| 履修上の注意 | 講義に際しては、積極的な参加を期待(前提と)しています。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 健康格差論 | | | |
| 担当者 | 鈴木寿則【仙台白百合女子大学】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|-------------------------------------|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・社会環境における健康づくりの理解 ・健康に影響を及ぼす社会経済的要因についての考察 | | | |
| 講義内容 | <p>これまで保健医療分野で取り扱ってきた「健康」について、社会科学の側面から考察します。社会科学における「健康」は、医療保険制度や介護保険制度などの制度論について考察されるものでした。また、「健康」は、その維持や増進のため、保健医療、とりわけ臨床医学が主に取り扱ってきましたが、この十数年來、予防医学の考えが重視されるようになり、社会医学としての公衆衛生学が、分野を問わず幅広く議論され、実践されてきております。</p> <p>そこで、本来は誰もが平等に享受すべき「健康」について、性別、家族、学歴、所得、居住地などの社会環境要因が影響を与えていることが明らかにされつつあります。これらの格差がどのように健康と関連し、健康格差を生じさせるのか、その基礎的な考えを理解し、グループワークなどを通じて、自分たちの社会生活からどのような因果関係で健康格差が生じうるのかを検討し、その課題解決に向けた実践的学習を展開していきます。</p> | | | |
| 達成目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会環境と健康の関係について理解する。 2. 健康に関連する社会環境の要因について考察することができる。 3. 健康格差について理解し、その解決方法について考察することができる。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 健康格差とはなにか これまでの健康格差研究について | | |
| | 授業計画第2回 | 社会科学モデルからの健康の因果関係について 社会環境要因について | | |
| 学修に必要な準備 | 特に必要ありません。 | | | |
| テキスト | 授業で使用するプリント等は、授業中に配布致します。 | | | |
| 履修上の注意 | 本講義は、健康格差について解説していきますが、社会環境と健康の関連性は、それぞれの背景、考察が様々であり、異なってきます。履修上、受講者の皆様には、講義で学修した内容を、常に自分たちの現場等でどのように活用できるのかを考え、主体的に取り組んで頂きたいと思っております。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | 特になし。 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 傾聴の技法 | | | |
| 担当者 | 阿部重樹【東北学院大学】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|---|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・相談力向上(聴き上手になる)技法 ・ワーカーの持つ価値に係る自己覚知の意義 | | | |
| 講義内容 | コミュニティソーシャルワークにおいても、ワーカーは例えばアセスメントや援助(支援)計画策定にあたっては、構築された信頼関係のもとに得られるより多くの情報の収集が必要となってきます。こうした側面において求められる傾聴(の技法)とワーカーの持つ価値に係る自己覚知の意義について、ワークを取り入れながら学びます。 | | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉分野での援助(支援)におけるラポール(信頼関係)構築の意義について理解する。 ・ラポール構築のための有力な要素としての傾聴のもつ意味について理解する。 ・傾聴のための具体的な手法について学び、自らのものとして修得する。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 社会福祉分野の援助(支援)におけるラポール(信頼関係)の構築の意義を学ぶ。コミュニケーションにおいてポイントとなる「共感的理解と受容」に傾聴(アクティブリスニング)の果たす役割、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションについて知る。 | | |
| | 授業計画第2回 | メラビアンの法則の教えるところを知る。傾聴のためのCSOLERとは何か。バイスティックの7つの原則を学ぶ。いくつかの具体的な傾聴の技法について理解をし、ワーク(実践)を通して傾聴の技法がラポールの構築にとってもつ意味を学ぶ。 | | |
| 学修に必要な準備 | 特にありません。 | | | |
| テキスト | 特にありませんが、当日授業で用いる資料(プリント)を配布します。 | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--------------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | コミュニティビジネス | | | |
| 担当者 | 吉澤武志【(一社)筆甫地区振興連絡協議会】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|--|-----------------------|
| テーマ | ・コミュニティビジネスの基本的な理解と演習 | | |
| 講義内容 | <p>地域が抱える様々な課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとするコミュニティビジネス。本講義では、丸森町筆甫地区で取り組まれているコミュニティビジネスを通して、コミュニティビジネスの考え方を学びます。</p> <p>また、実際にそれぞれが置かれているコミュニティにおける事業を考えてみることで、地域課題をコミュニティビジネスの力で解決していく方法を参加者同士のワークにより学びます。</p> | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティビジネスの基本的な考え方を理解をする。 ・地域課題をビジネス的な手法によって解決する視点を養う。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | コミュニティビジネスの事例とその考え方について ・丸森町筆甫地区の実践事例から学ぶ | |
| | 授業計画 第2回 | コミュニティビジネス演習 ・コミュニティにおける事業の構想を検討する | |
| 学修に必要な準備 | 受講者の方が関わるコミュニティの地域課題とその解決方法をイメージして演習に臨んでください。 | | |
| テキスト | テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---------------------------------|--|------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | コミュニティ設計 | | | |
| 担当者 | 手島浩之【(有)都市建築設計集団/UAPP】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|---|----------------------|--|
| テーマ | 東日本大震災復興における建築・都市の専門家から学ぶ、コミュニティのハードとソフトについて | | | |
| 講義内容 | 東日本大震災からの復興における建築・都市の専門家の実践から、コミュニティに係るハードとソフトの設計の在り方を考える。特に、災害公営住宅をめぐり、福祉と建築の接点の在り方を模索したい。 ハードの視点から進めるコミュニティづくりの考え方や進め方とその限界、及びソフトを担うCSWへ担って頂きたいこと。ハードとソフトの協働の必要性について。 | | | |
| 達成目標 | コミュニティ形成と維持におけるハードとソフトの協働の必要性について理解を深める。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 東日本大震災からの復興における建築・都市の専門家の実践から、コミュニティに係るハードとソフトの設計の在り方を考える。 | | |
| | 授業計画第2回 | ハードの視点から進めるコミュニティづくりの考え方や進め方とその限界、及びソフトを担うCSWへ担って頂きたいこと。ハードとソフトの協働の必要性について。 | | |
| 学修に必要な準備 | 特に準備は必要ありません。 | | | |
| テキスト | テキストは使用しません。 | | | |
| 履修上の注意 | 特にありません。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--------------------------------|--|------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 東日本大震災と地域福祉 | | | |
| 担当者 | 真壁さおり【社会福祉士・ファシリテーター】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|---|--|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> 被災当事者が担った被災者生活自立支援から学ぶこと 住民の力を信じ、生かす地域福祉・地域づくり | | | |
| 講義内容 | <p>【第1回】 東日本大震災後、宮城県では被災者生活自立支援の担い手を、被災当事者である住民自身に求めました。大規模災害により、福祉系専門職だけが支援を担うことが困難であったことも大きな要因のひとつです。しかし、多くのものを失った被災者の自立再建を、住民自身が主体となって支える体制づくりのプロセスを通して、私たちは地域福祉・地域づくりの根幹となる大切なことを学びました。 第1回では、その生活自立支援体制づくりの試みのプロセスと、それによってどんな成果や学びを得たのかを、各地の事例を通して学びます。グループワークの時間も含まれます。</p> <p>【第2回】 地域共生社会の実現を目指しさまざまな取り組みが実践される中、「住民主体」という言葉が都合よく解釈されていないだろうか、と感じることもあります。 被災当事者の力を信じ、生かす被災者支援の経験は、平時の地域福祉・地域づくりの仕組みづくりの基盤となるものです。住民、行政、社協、NPOなど、それぞれがどのように考え、動き、協働し合い、大きな目標に向かっていくのか、被災者支援の事例から学び、具体的な実践につながるような創造的ワークショップを行います。</p> | | | |
| 達成目標 | <p>【第1回】 東日本大震災後の被災者生活自立支援の取り組みとその成果を体系的に学び、現在の自身の仕事や役割と関連付けて理解できる。</p> <p>【第2回】 地域福祉・地域づくりの推進に向けて、被災者支援の経験から学んだ考え方や実践を、自身の仕事や役割の中でどのように具体化できるか、ワークショップを通して「見える化」できる。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> 当事者性を活かした被災者支援 市民的専門性を培った支援員たちと、彼らを育てる環境整備の重要性 平時に「支援員」な役割を担うのは誰か | | |
| | 授業計画 第2回 | <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉・地域づくりにおける自分自身の立ち位置、役割、必要なスキルとは 役割を越境することで見えてくる地域福祉・地域づくりのアイデア アイデアを見える化する | | |
| 学修に必要な準備 | 第1回:事前に、「自分にとっての東日本大震災とは」という問いに対する答えを考えておいてください。 第2回:事前に、「自分にとっての地域福祉・地域づくりとは」という問いに対する答えを考えておいてください。 | | | |
| テキスト | 第1回、2回とも、担当者が資料を作成、準備します。 | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--------------------------|--|------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 臨床宗教学(聴くチカラ・カフェデモンク事例から) | | | |
| 担当者 | 金田諦應【通大寺住職】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|-------------------------|----------------------|
| テーマ | 傾聴のチカラ コミュニティのチカラ | | |
| 講義内容 | 「傾聴」は他の人生に介入していく場合の基本的スキルである。東日本大震災被災地で活動し続けている「傾聴移動喫茶・カフェデモンク」の活動事例を通して、傾聴とはなにか、寄り添う事とは何かを学んでいく。また、避難所・仮設住宅・復興住宅での活動事例を通して、コミュニティのあり方を共に考えていきたい。 | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴とは相手との対話だけでなく、自分と厳しく向き合う作業である事を理解できる。 ・震災と震災後の経験を、社会全般を問い直す視点として捉え直すことができる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 東日本大震災と傾聴移動喫茶「カフェデモンク」 | |
| | 授業計画第2回 | カフェデモンクの活動から学んだ「傾聴のチカラ」 | |
| 学修に必要な準備 | 特になし | | |
| テキスト | パワーポイントから起こした資料と活動に関連した資料を配布します。 | | |
| 履修上の注意 | 震災を過去の出来事にせず、常に「今」の事として捉え、日常に活かして下さい。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | リスクコミュニケーション | | | |
| 担当者 | 大谷みち子【福島県浪江町】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|--|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・放射線について正しく理解する。 ・リスクコミュニケーションが目指すことについて理解する。 ・地域社会にある様々なリスクについて、住民と共に話し合い考えることへの理解を促す。 | | | |
| 講義内容 | <p>私たちは、身の周りにある様々なリスクと常に背中合わせで生活をしています。</p> <p>リスクコミュニケーション(以下、リスコミ)では、社会を取り巻くリスクに関して、住民、行政、専門家、関係機関等の関係者間で正しい情報を共有し、安全対策に対する認識や協力関係について双方向でコミュニケーションを図ることにより、相手の気持ちを理解し、信頼関係の醸成につなげていくことを目指します。</p> <p>11年前、東京電力福島第一原発事故によって大量の放射性物質が放出され、これまで経験したことのないリスクと向き合ってきましたが、ある小さな町で行ってきたことを事例に取り上げて紹介し、受講生のみならずと一緒にリスコミについて考えていきます。</p> | | | |
| 達成目標 | <p>①私たちの身の回りにある「自然の放射線」と福島第一原発の「事故による放射線」の違いの有無や健康への影響等、放射線の基本的な知識について理解できる。</p> <p>②講義では放射線のリスクが中心になるが、それをもとにして普段身の周りで起きている様々なリスクに対して、地域、職場等でどのように対応していけばいいの、リスコミの考え方、手法の学びを生かして、日頃から大切にしておきたいことに関連づけて理解できる。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 放射線とは怖いものなのか、福島第一原発事故はどのようなものだったのか、健康にどんな影響があるのか等、普段では考えることが少ない放射線について、普段身の回りにある自然放射線と比較する等して、放射線に関する基本的なことを説明します。 | | |
| | 授業計画第2回 | リスコミとはどういう考え方、手法なのかを説明します。そのあとで、情報が不十分なままに避難を強いられた住民や受け入れ先の住民の気持ちに思いを馳せ、避難先で実際に起きた事例を用いて演習を行います。そして、あらためてリスコミが目指すことや日頃から大切にしておきたいことについて説明をします。 | | |
| 学修に必要な準備 | <p>可能であれば、インターネットなどで「私たちの身の回りにある自然の放射線」について、前もって目を通していただくと、講義の内容がよりわかりやすくなるかと思います。</p> <p>検索Keyword: 意外と身近な放射線、身の回りにある放射線</p> | | | |
| テキスト | <p>テキストは特にありません。</p> <p>講義資料は、事前に配付します。</p> | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | パワーポイントを使用します。 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------------|--|------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | 実践技法 | |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 発達障害者支援 | | | |
| 担当者 | 皆川美雪【宮城学院女子大学学生相談室】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|---|---|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の理解 ・社会的取り組みの現状と課題 ・地域社会と社会的包摂 | | | |
| 講義内容 | <p>ノーマライゼーション理念が実現されたというにはまだまだの感があるものの、障害者の暮らしやすい地域社会が目指されてきています。こうした状況の中にあって精神障害者とともに発達障害をもつ者の社会的包摂はとりわけ遅れているのが現状です。</p> <p>発達障害の理解をはじめとして、その社会的な取り組みや課題等の現状について学び、発達障害者を地域社会が包摂していくために、いま求められていることについて受講生とともに演習形式で学びます。</p> | | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害についての理解を深め、関連諸法の動向の中で発達支援の諸課題を理解する。 ・地域資源活用の観点から、俯瞰的視点でネットワーク図を描くことができるとともに、より良い支援が模索できる。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 発達障害の概念-大人の発達障害を中心に- 発達障害の二次障害への対応について | | |
| | 授業計画 第2回 | 事例を通して、地域資源を生かした支援を探る | | |
| 学修に必要な準備 | 準備は特に必要ありません。 | | | |
| テキスト | 特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。 | | | |
| 履修上の注意 | テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確実なものとなるように、授業終了後の復習に取り組むようにして下さい。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | 授業の際に、第1回～第2回の授業テーマごとにそれぞれの参考文献を紹介致します。 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 特論演習 |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 特論演習 I A(高齢者支援と地域社会) | | | |
| 担当者 | 西澤英之【宮城県社会福祉士会】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|--|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの活動の実際 ・地域包括ケアシステム構築に向けての課題 | | | |
| 講義内容 | <p>2025年度を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの深化・推進を目指した介護保険制度改正が行われ、高齢者が住み慣れた地域や自宅で安心して暮らし続けることができるように、地域における包括的な支援体制構築が求められています。特に、日常生活圏域ごとに設置された「地域包括支援センター」に対する社会的な期待は高く、地域の中核的な役割を担うことが期待されています。</p> <p>この講義では、地域包括支援センターの役割や課題について学び、地域包括ケアシステムの構築に向けて共に考えていきます。</p> | | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティソーシャルワーカーとして、地域包括ケアシステム構築に向けた課題を的確に捉えることができる。 ・高齢者の豊かな地域生活を支援することについて様々な角度から考えることができる。 | | | |
| 授業計画 | 講義 | 地域包括支援センターの役割と地域社会における支え合い構築について | | |
| | 演習 | <p>【演習1】高齢者を取り巻く生活課題の共有と支援のあり方を考える</p> <p>【演習2】地域社会における支え合いの構築を考える</p> | | |
| 学修に必要な準備 | 高齢者を支える地域の社会資源をできるだけ多く探して演習に臨んでください。 | | | |
| テキスト | テキストは特に用いません。講義・演習に必要な資料はその都度配布します。 | | | |
| 履修上の注意 | 演習では受講者からの積極的な発言を求めます。日頃から自分が住む地域や勤務する地域の状況を多角的に捉えておいてください。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|------------------------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 特論演習 |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 特論演習ⅡA(生活困窮者支援と地域社会) | | | |
| 担当者 | 後藤美枝【一般社団法人パーソナルサポートセンター】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|---------------------------|-----------------------|
| テーマ | 生活困窮者自立支援制度の実際と課題 | | |
| 講義内容 | 生活困窮者支援の実際から見えてきた、コミュニティソーシャルワーカーがしなければならないことを考えます。また、実践から見えてきた課題を受講生とともに演習形式で検討します。 | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者自立支援制度の現状を理解する。 ・現状を把握したうえで、これからの地域づくりについて理解・考察を深める。 | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 生活困窮者自立支援制度について | |
| | 授業計画第2回 | 居住支援について(居住支援の取り組みとケース事例) | |
| 学修に必要な準備 | 準備は特に必要ありません。 | | |
| テキスト | 特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。 | | |
| 履修上の注意 | 提出課題で70点以上獲得できるように復習をしてください。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | 参考文献は特にありません。 | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 特論演習 |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 特論演習ⅢA(子育て支援と地域社会) | | | |
| 担当者 | 小岩孝子【特定非営利活動法人 FOR YOU にこにこの家】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|---|---|-----------------------|--|
| テーマ | 子どもたちが明日に希望が持てる地域社会 | | | |
| 講義内容 | <p>ひとり親世帯や心身を患っている親世帯、障害児を持つ世帯、核家族などが増加する中で、社会的格差及び貧困から来る家庭機能の低下が、子どもの心身の不健康と発達の遅れを引き起こしている現状を踏まえ、「子ども・子育て応援社会」の実現が望まれます。子育てはとすれば夫婦や家庭、学校の問題と捉えられがちですが、国・地方自治体はもとより、企業・職場とともに地域社会の役割も大きなものとなっています。いじめや不登校の問題を抱えている子どもが増えている状況を踏まえ、学校教育・家庭教育・社会教育の3つをつないでいくことが大切です。このような社会的な要請に取り組んできた事例とそこから見えてくる課題について演習形式で学びます。</p> | | | |
| 達成目標 | <p>■新しい地域福祉の時代における子ども・子育て支援のあり方や望ましい子どもの心の育ちと環境を実現するために、「子どもは社会の子ども」として、「地域のみんなで子育て」の理念を理解する。 ■子どもたちの未来のために、地域一体となった子ども・子育て応援社会を目指し、地域社会の中でコミュニティソーシャルワーカーが果たす機能と意義について理解する。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 子ども・子育て社会の実例による講義 | | |
| | 授業計画第2回 | 地域社会と子ども・子育て社会の課題・演習 「子どもの未来を応援する社会」対策の事例 グループワーク コミュニティソーシャルワーカーの子ども・子育て応援演習 | | |
| 学修に必要な準備 | 準備は特に必要ありません。 | | | |
| テキスト | 特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。 | | | |
| 履修上の注意 | 授業の内容について、理解が確かなものとなるように、授業終了後の復習に取り組み、実践をしてください。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|-----------------------------------|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 特論演習 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 特論演習IVA(障害者支援と地域社会) | | | |
| 担当者 | 伊藤清市【社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|--|----------------------|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く地域社会の現状と課題 － 社会福祉法改正、地域包括ケア、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、コロナ禍等－ ・課題解決に向けた方策と目指すべき方向 | | |
| 講義内容 | <p>国連の障害者権利条約の批准に伴い整備されてきた障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法の改正および成立を経て、日本の障害者福祉制度は成熟期に入りました。一方で相模原障害者施設殺傷事件、旧優生保護法における強制不妊手術、そしてコロナ禍における生活のし辛さや社会分断等、新旧の様々な問題も山積しております。</p> <p>本講義ではそれらの現状と課題を、身体障害当事者である講師のライフヒストリーを交えながら、令和2年に改正された社会福祉法や地域包括ケアも含めた共生社会の観点から考察します。</p> | | |
| 達成目標 | <p>障害者の地域生活においてコミュニティソーシャルワーカーが果たす役割を理解するとともに、レポートや演習にて意見表明できるようになる。</p> | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | <p>「障害」とは何かを改めて考える</p> <p>－ 医学モデルから社会モデルへ、自立とは、コロナ禍の現状と課題－</p> | |
| | 授業計画第2回 | <p>権利擁護システムの構築</p> <p>－ 社会福祉法改正、地域包括ケア、障害者差別解消法、障害者虐待防止法等－</p> | |
| 学修に必要な準備 | <p>時事問題を扱いますのでニュース等に関心を寄せてください。</p> | | |
| テキスト | <p>特に用いません。授業の際に配布する資料とパワーポイントのスライドを利用して授業を行います。</p> | | |
| 履修上の注意 | <p>テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確かなものとなるようにミニッツペーパーを記入してください。</p> | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(GSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|-----------------------|--|------|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 特論演習 |
| 必選区分 | | | 選択科目 | |
| 科目名称 | 特論演習VIA(精神障害者支援と地域社会) | | | |
| 担当者 | 菅原里江【東北福祉大学】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|--|-----------------------|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者を取り巻く地域社会の現状と課題 ・課題解決に向けた地域における支援者の役割 | | |
| 講義内容 | <ul style="list-style-type: none"> ■精神障害を抱える人について知る わが国において精神障害者が置かれてきた状況を把握します。それをふまえ、国がどのような対策を行ってきたか、精神保健福祉士の国家資格が何故求められたか、地域においてソーシャルワーカーが果たす役割とは何かについて理解します。 ■課題を解決または緩和するための支援者の役割について知る 事例を用いて、本人、家族、地域、社会へ働きかける支援者の役割について理解します。 | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の立場を理解し説明できるようになる。 ・地域で生活する人としての精神障害者を理解し、置かれている状況についてアセスメントする力を醸成する。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 精神障害者の理解 一病と障害の併存、生活のしづらさー わが国の精神障害者を対象とした地域での取り組み～事例を用いたソーシャルワークの検討① ニーズ把握 | |
| | 授業計画 第2回 | わが国の精神保健福祉制度 精神障害者を対象とした地域での取り組み 事例を用いたソーシャルワークの検討② アセスメント～プランニング | |
| 学修に必要な準備 | 特にありません。 | | |
| テキスト | | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|-------------------------------|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 特論演習 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 特論演習ⅧA(SDGsと地域社会) | | | |
| 担当者 | 紅邑晶子【一般社団法人SDGsとうほく】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|--|-----------------------|--|
| テーマ | ・SDGsと地域社会との関係、活動の実際 | | | |
| 講義内容 | SDGsの17目標と地域社会の課題は、いずれも何らかの関係があります。この17の目標はCSWの活動にも密接な関係があるのですが、まだこのことについて学ぶ機会は少ないのが現状です。本講座では、SDGsとはどういうものか、またCSWの活動にどのように活用できるかを学びます。 | | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについての理解を深める。 ・パートナーシップで地域課題を解決することを考え、CSWの活動につながるSDGs的アクションプランを創り出す。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画前半 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを理解する。SDGsとは、SDGsの実践例の紹介(自治体・企業・NPO/ NGO) ・受講生が担当している仕事で困っていることとSDGsの17目標との繋がりを考える。 | | |
| | 授業計画後半 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講生が担当している仕事で困っていることの解決策を考えるワークショップを行う。 ・受講生自身とSDGs、所属している団体とSDGs、自分の担当している仕事とSDGsについて考える。 ・ワークショップを踏まえて、SDGsを活用したアクションプランを話し合い、発表する。 | | |
| 学修に必要な準備 | SDGsとはの次に示した2つの動画を事前に視聴すること。 ① https://www.youtube.com/watch?v=4lg0ZwMdCIY ② https://www.youtube.com/watch?v=9LQJLz7vU2c | | | |
| テキスト | | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究 I A(まちづくりとコミュニティソーシャルワーク: 仙台市を事例として) | | | |
| 担当者 | 大久保環【仙台市社会福祉協議会】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|--|--|-----------------------|
| テーマ | 仙台市における先取的な事例紹介と演習形式での検討 | | |
| 講義内容 | 東日本大震災以降の仙台市社会福祉協議会におけるコミュニティソーシャルワーカー(CSW)の歩みや主な活動内容について、実際の取り組み事例(復興のまちづくりや制度の狭間の事案等)による演習形式を交えながら、活動上の課題や成果、過程等を示し、これからのCSWの活動のあり方を一緒に考える内容とする。 | | |
| 達成目標 | コミュニティソーシャルワーカーが持つべき基本的な視点や役割、姿勢等について、実践的且つ主体的にとらえることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 仙台市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの現状と活動事例紹介 | |
| | 授業計画 第2回 | コミュニティソーシャルワーカーの役割について ー地域住民を中心に据えた支援(演習)ー | |
| 学修に必要な準備 | 特にありません。 | | |
| テキスト | 講師が作成し、事前送付又当日持参します。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究 I B(まちづくりとコミュニティソーシャルワーク:南三陸町を事例として) | | | |
| 担当者 | 高橋吏佳【南三陸町社会福祉協議会】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|--|---|-----------------------|
| テーマ | 南三陸町における先取的な事例紹介と演習形式での検討 | | |
| 講義内容 | CSW(コミュニティソーシャルワーク)の手法を活用した住民主体の被災者支援活動について、南三陸町を事例として取り上げ、東日本大震災以降の沿岸部における復興のまちづくりへの影響と実践活動の持つ意味及びその中にある理論について演習形式で検討します。 | | |
| 達成目標 | 被災者支援システムの中に織り込まれている社会学的知見と被災者支援から地域福祉への移行に関わる仕掛けについて理解できる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 南三陸町における被災者支援の実際について。 | |
| | 授業計画 第2回 | アクティブ・ラーニング(active learning)手法を用いて、被災者支援の実際を科学する。 | |
| 学修に必要な準備 | 特に準備は必要ありません。 | | |
| テキスト | 特に用いません。授業に際して配布する講義資料を用いて講義します。 | | |
| 履修上の注意 | 講義に際しては、積極的な参加を期待(前提と)しています。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---------------------------------|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究ⅡA(女川町を事例としたコミュニティソーシャルワーク) | | | |
| 担当者 | 千葉信二【女川町社会福祉協議会】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|--|-------------------------------|-----------------------|
| テーマ | 女川町における事例紹介と演習形式での検討 | | |
| 講義内容 | <p>コミュニティソーシャルワークは、生活上の課題を持つ個人や家族のニーズに対する個別支援を行いながら、あわせて、その地域における住民のネットワークづくりや生活環境の整備等の地域支援を多職種連携によって展開する取り組みです。</p> <p>女川町では、東日本大震災からの復旧・復興を通して、地域のつながりや支え合いの重要性を再認識し、その経験から学んだ被災者支援のノウハウを地域支援事業の推進に活かしております。本授業では、講義と演習を通して、コミュニティソーシャルワークについての基本的な理解を深め、地域支援の視点を学びます。</p> | | |
| 達成目標 | コミュニティソーシャルワークの展開方法について、その基本的な内容やプロセスについて説明することができるようになる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | 【講義】女川町における事例紹介 | |
| | 授業計画 第2回 | 【演習】事例を用いたコミュニティソーシャルワーク実践の展開 | |
| 学修に必要な準備 | 本授業は、コミュニティソーシャルワークに関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。昨今、報道等で取り上げられる社会的な問題に関心を持ち、授業に活かしてください。 | | |
| テキスト | 授業に際して配布する資料を用いて講義します。 | | |
| 履修上の注意 | 基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れます。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---------------------------------|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究ⅡB(柴田町を事例としたコミュニティソーシャルワーク) | | | |
| 担当者 | 相原美由紀【柴田町地域包括支援センター】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|---|-----------------------|
| テーマ | 柴田町地域包括支援センターに寄せられた相談事例等と事業を通して包括の役割を学ぶ。 | | |
| 講義内容 | 地域包括支援センターに寄せられた、認知症高齢者やゴミ屋敷、権利擁護の相談等の事例を通して、高齢者への関わり方(個別支援)と家族や地域住民へのアプローチ・事業所や医療機関、行政との連携(地域支援)の中から地域の総合支援について受講生の皆さんと共に考えます。 | | |
| 達成目標 | 地域包括支援センターの事業を通して、社会資源の活用、地域住民や関係機関との繋がりについて理解を深めることができる。 | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | お元気な高齢者が増えていくために地域包括支援センターが取り組んでいる事業と地域課題について、主にパワーポイントを使用し説明します。 | |
| | 授業計画第2回 | 地域包括支援センターに求められる役割と多職種協働について、意見交換をしながら進めていきます。 | |
| 学修に必要な準備 | 特にありません。 | | |
| テキスト | 必要に応じ当日プリントを配布します。 授業の際はパワーポイントを使用します。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|---------------------------------|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究Ⅳ(地域活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク) | | | |
| 担当者 | 増田恵美子【Naritaマルシェ】: 2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|-------------------------------------|----------------------|
| テーマ | 「ここに住んで良かった」と思える地域にするために大切なこと | | |
| 講義内容 | 「Naritaマルシェ」(富谷市成田地区)は、地域住民が自主的・主体的に実践している活動です。コロナ禍においても、自分たちの責任のもとに、できることを着実に実践し、さらに活動をその時々のニーズを踏まえて発展させています。どのような時でも、地元を軸足を置いて活動を続ける原動力となる「想い」や「願い」の大切さをお伝えします。 | | |
| 達成目標 | 「地域づくり」への意欲を高め、「住民が持っている地域づくりの可能性」や「活動を支える動機の大切さ」について理解する。 さらにそこから「様々な協働による事業展開の必要性」についての考えを深める。 | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 「Naritaマルシェ」の活動紹介: 立ち上げから現在までの歩みと学び | |
| | 授業計画第2回 | 「Naritaマルシェ」の活動紹介: コロナ禍での活動、そしてこれから | |
| 学修に必要な準備 | 特に準備は必要ありません。 | | |
| テキスト | 配布資料を使用します。 | | |
| 履修上の注意 | 地域づくりへの夢と意欲をもって共に授業を創造してくださることを期待します。 | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|----------------------------------|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究Ⅴ(栗原市若柳を事例としたコミュニティソーシャルワーク) | | | |
| 担当者 | 高橋由利【栗原市社会福祉協議会若柳支所】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | |
|------------|---|---|----------------------|
| テーマ | 住民力を活かした地域課題解決に向けた支援の在り方 | | |
| 講義内容 | <p>普段の暮らしの中に今も残る近隣間のお茶飲みで交される会話は、地域課題やニーズ、また、その解決策に向けた取り組みまでが話し合われています。お茶飲みこそ「地域ケア会議」と捉えた、住民自らが取り組んだ支援事例の紹介します。</p> <p>それを受け地域福祉推進を担う社協職員として、生活支援コーディネーターとしての関わり方や、支え合いの成り立ち、仕組み作りが、地域包括ケアシステムの中の大きな役割を果たすことを共に検討します。</p> | | |
| 達成目標 | <p>■地縁社会の中で育まれた生活習慣や伝統文化継承の中に隠れ潜む、支え合いの成り立ち・仕組みが地域包括ケアシステムのなかで果たす大きな役割を理解する。</p> <p>■その仕組みの中で、地域課題を他人事とせず、住民自らが我が事として、解決に取り組むまでのプロセスを理解し、普段の暮らしの中に、地域課題解決につながる価値を見出すことができる。</p> | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 栗原市の現状と栗原市社会福祉協議会が目指す小地域活動(地区社会福祉協議会)推進について。 | |
| | 授業計画第2回 | 生活支援コーディネーター(平成30年(2019))の視点で、組織や枠組みに捉われない、アウトリーチ型から見つけ出す、生活支援コーディネーターが果たす役割とは。 | |
| 学修に必要な準備 | 特に無し | | |
| テキスト | 当日の資料はパワーポイントを用いて事例紹介を行います。 | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--------------------------------------|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究Ⅵ(原発事故被災地を事例としたコミュニティソーシャルワーク) | | | |
| 担当者 | ダクルス久美【よりあいコミュニティソーシャルワークス】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|--|-----------------------|--|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・福島県における原発避難者の現状と課題 ・避難者課題と地域課題の包摂を考える | | | |
| 講義内容 | <p>東日本大震災における原発事故をきっかけとして、福島県内外には今もなお、避難生活を送る多くの方々があります。避難解除がされても帰町する人はごく一部。震災10年を過ぎ、長引く避難生活の中で様々な課題を抱えた多くの方々が、今もなお揺れる思いのなかで生活しています。</p> <p>この講義では特に、福島県内において今も多くの避難者の方々がいるという現状を「福島県の地域課題」と捉え、避難者の「今・ここ」での暮らしとこれからがどうあったらよいのかを、皆さんと共に考えたいと思います。</p> | | | |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・福島県の原発避難者の方々が置かれている現状を理解する。 ・原発避難者を取り巻く課題の本質は何かについて考察できる。 ・避難者、受け入れ側地域それぞれが直面する課題の理解を通して、コミュニティのあり方や必要な施策・制度について考えを深めることができる。 | | | |
| 授業計画 | 授業計画 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・福島県原発事故から、避難の変遷と現状について ・復興公営住宅支援の変遷と避難元・避難先それぞれの課題 | | |
| | 授業計画 第2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「避難者支援」の枠組みの限界 ・「避難者をとりまく地域全体の課題とコミュニティ再生」についての検討とディスカッション | | |
| 学修に必要な準備 | 福島県における原発避難に関する記事・報道等があれば目を通しておいてください。 | | | |
| テキスト | 当日、パワーポイントの印刷資料等を配布します。 | | | |
| 履修上の注意 | | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | ○実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | 推奨選択科目(関連科目):「東日本大震災と地域福祉」「災害ケースマネジメント」 | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | | | |
|---------|--|--|--|------|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | | | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | | | |
| 科目分類 | | | | 事例研究 |
| 必選区分 | | | | 選択科目 |
| 科目名称 | 事例研究Ⅶ(仮設住宅・災害公営住宅を舞台としたコミュニティソーシャルワーク) | | | |
| 担当者 | 齊藤康則【東北学院大学】:2コマ(3時間) | | | |

| | | | | |
|------------|--|--|----------------------|--|
| テーマ | 仮設住宅、災害公営住宅におけるコミュニティ形成を再考する (keywords) 仮設住宅、みなし仮設、災害公営住宅、同郷サロン、道具的／自己充足的コミュニティ形成 | | | |
| 講義内容 | <p>災害が発生すると、住宅を喪失した被災者は仮設住宅に入居し、その後、恒久住宅へと住まいを移していく。東日本大震災では従来のプレハブ仮設に加え、木造仮設住宅、みなし仮設(借上型仮設住宅)が見られるなど、仮設住宅の様式が多様化することになった。</p> <p>そして、恒久住宅の1つである災害公営住宅では、とりわけ都市部において、居住者の流動化が顕著な傾向となっている。壮年世代の退去は、居住者組織(町内会、自治会など)の脆弱化を引き起こし、入居開始期に留まらないコミュニティ形成の技法が、あらためて問われている。</p> <p>この講義では、仮設住宅、災害公営住宅の双方におけるコミュニティ形成について、担当者自身のフィールドワークを踏まえながら、具体的に論じることしたい。</p> | | | |
| 達成目標 | <p>① 仮設住宅における生活課題とコミュニティ形成について知る。</p> <p>② 災害公営住宅における生活課題とコミュニティ形成について知る。</p> <p>③ 東日本大震災におけるコミュニティ形成の特徴について理解する。</p> | | | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 講義① 仮設住宅におけるコミュニティ形成——みなし仮設と同郷サロン | | |
| | 授業計画第2回 | 講義② 災害公営住宅におけるコミュニティ形成——入居4年目問題とコミュニティ再形成の主体 | | |
| 学修に必要な準備 | テキストは事前に配布しますので、必ず目を通しておいてください。 | | | |
| テキスト | <p>① 齊藤康則, 2019, 「もう一つのコミュニティ形成——「みなし仮設」と「同郷サロン」から考える仙台の復興」吉野英岐・加藤真義編『震災復興と展望——持続可能な地域社会をめざして』有斐閣, 128-156.</p> <p>② 齊藤康則, 2022, 「災害公営住宅におけるコミュニティ形成を再考する——東日本大震災・田子西復興公営住宅へ入居者を迎え入れる主体と論理の展開」『地域社会学会年報』34(印刷中).</p> | | | |
| 履修上の注意 | 積極的に発言してください。 | | | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 | |
| | 実務家教員や実務家による授業 | | 実地での体験活動を伴う授業 | |
| 備考 | | | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | |
|---------|----------------------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | |
| 科目分類 | 報告会(グループワーク) | |
| 必選区分 | 必修科目 | |
| 科目名称 | 中間報告会(グループワーク) | |
| 担当者 | 渡邊圭【東北学院大学】:2コマ(3時間) | |

| | | |
|------------|---|-------------------------|
| テーマ | | |
| 講義内容 | CSWスキルアッププログラムの半年間の受講によって各受講生の学修成果の確認を行います。学修成果の確認にあたっては、事前提示の課題に基づくグループワークを実施し、コミュニティソーシャルワーカーとして求められる役割・機能について、受講生間で議論/意見交換を行います。 | |
| 達成目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. どのようなコミュニティソーシャルワークの機能やコミュニティソーシャルワーカーとして求められている役割を理解する 2. 本プログラムの学修成果等を中間地点で確認し、目指すコミュニティソーシャルワーカーとしての目標を設定する 3. 目標像実現に向け、今後の本プログラムにおいて、何を身に付けるべきか/学修すべきかを検討し、中間報告以降の学習計画を立案する。 | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 提示課題に基づくグループワーク |
| | 授業計画第2回 | グループワークを通して作成した成果物の個人発表 |
| 学修に必要な準備 | 受講開始時に立てた個人目標等(本プログラムを通して身に付けたいスキル・能力等)を再度確認のうえ、出席してください。 | |
| テキスト | 特にありません。必要に応じ、配付資料を準備します。 | |
| 履修上の注意 | グループワーク、発表ともに積極的な参加を求めます。 | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | |

2022年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

| | | |
|---------|----------------------|--|
| 開講キャンパス | 土樋キャンパス | |
| 授業開講年度 | 2022年度 | |
| 科目分類 | 報告会(グループワーク) | |
| 必選区分 | 必修科目 | |
| 科目名称 | | |
| 担当者 | 渡邊圭【東北学院大学】:2コマ(3時間) | |

| | | |
|------------|--|--------------------------------------|
| テーマ | | |
| 講義内容 | 1年間のプログラムの学修成果の確認として自己評価を行い、その評価を受講生間で共有(言語化)することで、プログラムでの学修を踏まえ、地域福祉の推進に向けたコミュニティソーシャルワーク機能とその役割を理解する。 | |
| 達成目標 | (1) 地域福祉推進にむけてのコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能を理解する (2) 本プログラムを通じて得られた成果—知識・技術—に関する自己評価を実施する (3) 本プログラムを通じて得られた学修成果及び自己評価を受講生間で共有し理解を深める | |
| 授業計画 | 授業計画第1回 | 地域福祉推進に向けたコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能を理解する |
| | 授業計画第2回 | 本プログラムによる学修成果の確認とその共有 |
| 学修に必要な準備 | 事前学修として、これまでのプログラムでの学びの振り返りを行う。 | |
| テキスト | 特にありません。必要に応じ、配付資料を準備します。 | |
| 履修上の注意 | グループワーク、発表ともに積極的な参加を求めます。 | |
| 授業運営に関する方針 | 企業等と連携して行う授業 | ○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 |
| | 実務家教員や実務家による授業 | 実地での体験活動を伴う授業 |
| 備考 | | |